

'91 ハワイ 皆既日食 (マウナラニ)

永島和郎

ハワイ日食に行って来ました。'76 オーストラリアから始まって、5回目の日食行です。今回、私は、神戸天文同好会を中心とするツアーに参加しました。一行15名という少人数であり、和気あいあいとして、とても楽しい旅行でした。観測はコナの北方約40kmのリッツカールトン・マウナラニ・ホテルの前庭で行ないました。ここは、海岸のリゾート・ホテルであり、観測場所は海から、4~500m程の所でした。望遠鏡を据えた場所は、8m程の小高い所で、広々とした平原の向こうに(晴れていれば)マウナケアの見える、絶好の観測サイトでした。又、日本人が最も多く集まった(千~2千人程)ワイコロア・ビレッジは、私たちの前方、すなわち東へ8kmの所にありました。

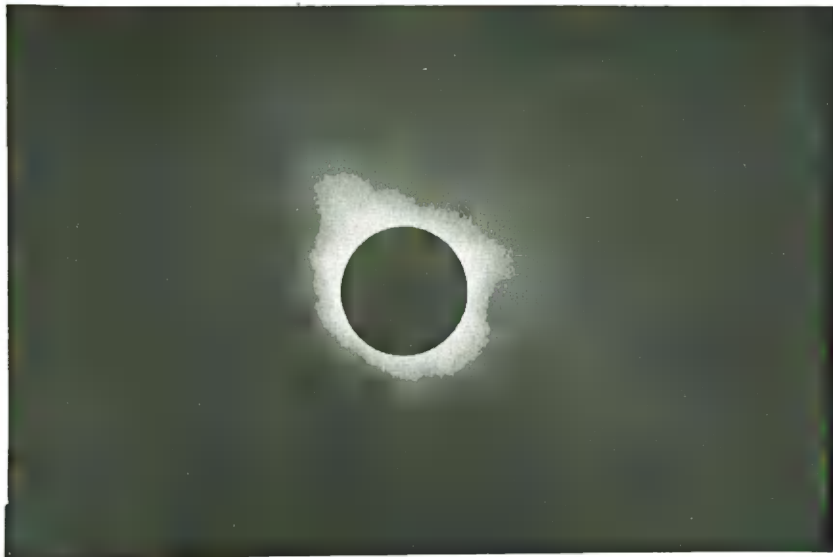
当日の天候ですが、前日よりほぼ全天が雲に被われており、朝になっても、その状態が続いていました。完全に明るくなり、日食の始まる時刻あたりから時おり、太陽が雲間に見えるようにはなったが、まだ雲が多く、半分あきらめ気分で観測準備をしておりました。ところが、皆既の直前(1~2分前か?)になって、太陽を被っていた雲が退き、薄雲が残っていたが、4分間、コロナとプロミネンスを見る事ができました。皆既終了後、間もなく再び雲が広がったので、まったく奇跡的に見えたと言えましょう。

今回、眼視用として、ビクセンFL 55mm 22倍を使用し、比較的しっかり見ました。コロナは、雲の為2R程度しか見えず、ストリーマーも目立たず、平板で、あまり美麗ではありませんでした。それでも、写真では、意外とコロナが広がって(3Rまで)写っており、微細構造も良く解るものとなっています。しかし、今回、特筆すべきことはプロミネンスです。今までの日食やプロミネンス・アダプターで見たものと違って、大きく、変化に富んだ、すばらしいものでした。プロミネンスは東西にそれぞれ、大きなものがあつた。最初、東側のものが3つに枝分かれしたように見え、途中から西側の物が見え出したが、こちらはさらに大きく、とても明るいものでした。

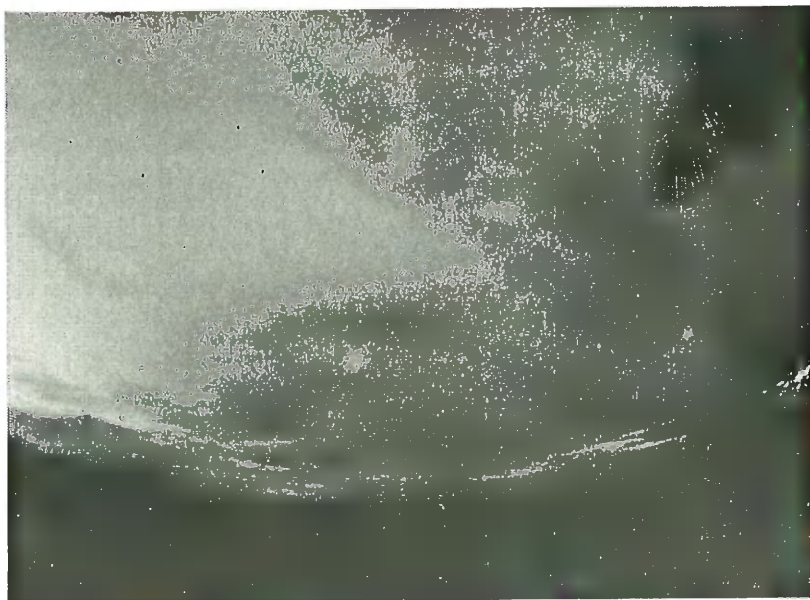
ところで、雲の影響ですが、今回の皆既はかなり明るく感じられ、とくにプロミネンスは明るくはっきり見えたので、見た目には雲の影響はそう大きくない様に思えました。しかし、でき上った写真を比較検討して見ると、最初の1分数秒までの所でも、3~4段の、それ以後は約6段の露出減となっており、見た目以上に雲の影響が大きい事が解ります。今までに聞いた所では、ワイコロア・ビレッジでは皆既はまったく見えず、カイルア・コナでは見えたとの事です。それから、現地のテレビ・ニュースで、なんと!!ヒロで見えたと報じていました。結局、7月11日のハワイの天候は、たまにしかないはずの貿易風の弱まる日に当たってしまった、とい

う事になりました。

それでも、一応コロナやすばらしいプロミネンスを見る事ができました。又、それより前10日に、以前からぜひ見たいと思っていた、キラウエア火山をじっくりと見る事ができ、そして、期待に違わぬ、すばらしい景観でした。さらに、12日には、この期間は立入りできないと言われていた、マウナケアにも行けました。充実し、満足したハワイ日食行でした。



コロナ 1991.7.11 7^h28^m43^s (ハワイ時間) ペンタ 75 EDHF (f=500mm) 直焦
1/4秒 コニカDD400 (ISO200相当現像) オリンパスOM-1



第3接触時の本影錐 7^h32^m13^s ロッコール16mm対角魚眼F2.8絞りF4
コニカクロームR200 ミノルタX-500自動露出(自動撮影)